

別府観光あり方検討会議 持続可能な別府観光に向けた政策提案

令和3年12月

(1) ユニバーサルツーリズム

別府市が抱える「観光客1人当たり観光消費額が低く、同じく宿泊客の平均宿泊数が全国より低い」という課題の解決には、「高齢者・障がいのある方々の受入環境を整備し、日本一のユニバーサルツーリズム都市を目指すこと」が有効である。

なぜなら「高齢者・障がいのある方々は、長期滞在や平日の宿泊が多い傾向にあり、平均宿泊数が増加する」という効果が見込まれるからだ。

実現に向けては「市民を含め観光客に向けた広報の充実、観光事業者と福祉事業者の連携、関係者への研修」が必要であり、具体的には、「広報や受入環境整備に向けたソフト面の拡充を市内バリアフリーツアー関係者と連携して推進する」ことを提案する。

(2) 観光DX

別府市が抱える「観光客1人当たり観光消費額が低く、観光業の生産性が低い」という課題の解決には、「コンテンツ整備・データ利活用によるデジタル観光地経営の強化」が有効である。

なぜなら「観光客に魅力ある旅マエ・旅ナカの情報提供と、データに基づくマーケティングによる観光消費単価の上昇、別府のファン・リピーターの増加」という効果が見込まれるからだ。

実現に向けては「官民一体の観光データ利活用に向けた機運の醸成」が必要であり、具体的には、「独自宿泊予約サイト、リニューアル予定の市公式観光WEBサイト、別府市観光公式LINEアカウントを軸にした観光データ活用基盤の整備と普及促進、及び消費単価上昇やリピーター創出を目的とした、データ分析による効果検証と改善の実施による、より効果的なPDCAサイクルの確立」を提案する。

(3) 免疫力日本一宣言の実現

別府市が抱える「観光客1人当たり観光消費額が低く、同じく宿泊客の平均宿泊数が全国より低い」という課題の解決には、「湯治効果のエビデンスと一定期間の滞在を伴う湯治文化を発信すること」が有効である。

なぜなら「エビデンスを伴った湯治は、ワーケーション誘致を促し、滞在日数が増加する」という効果が見込まれるからだ。

実現に向けては「不足している一般旅行者の健康増進効果を示すデータ収集、市内の若者への湯治文化の理解促進、湯治プラスαの魅力づくり」が必要であり、具体的には、「データ収集を目的としたワーケーション事業の実施、大学生に向けた湯治の普及促進、免疫力を高める旅行商品パッケージの開発促進」を提案する。

(4) 食×観光

別府市が抱える「全国と比較して観光業への集中が著しい点、域内経済循環の向上の必要性、また、農業の収益向上と担い手育成の必要性」という課題の解決には、「新規

就農の促進、観光客が求める高付加価値品種の栽培による収入増、宿泊・飲食事業者への直販といった販売ルートの多角化」が有効である。

なぜなら「観光業と農業、双方の生産性が向上し、域内経済循環が向上する」という効果が見込まれるからだ。

実現に向けては「飲食・宿泊事業者と定期的に情報交換する環境を整え、別府を中心とした農産物の情報発信を行うこと、また、担い手の育成を推進すること」が必要であり、具体的には、「別府発の農家と宿泊・飲食事業者をつなぐプラットフォームの創設」を提案する。